

グルパール 19S によるコムギアレルギー症例の疫学調査 診断確実例の登録最終報告 (2014 年 10 月 最終集計)

ご報告する調査の母集団は、全国の医師から on line で登録された症例と、FAX で日本アレルギー学会 化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会（委員長 藤田保健衛生大学医学部皮膚科学 松永佳世子）宛てに登録された症例のうち、本特別委員会の診断基準(※)を満たす確実例としました。今回は、これまでの症例について、改めて診断基準を満たしているか、症例の重複はないか等の最終チェックを実施し、2014 年 10 月 20 日までの登録を最終とした、診断確実例の登録最終報告を行います。

※「茶のしずく石鹼等に含まれた加水分解コムギ（グルパール19S）による [即時型コムギアレルギーの診断基準](#)」化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会作成 2011.10.11)

1. 2014 年 10 月 20 日時点、確実例は 2,111 例でした。
2. 女性 2025 例(95.9%)、男性 86 例(4.1%)でした。
3. 年齢は 1 歳(男児)から 93 歳(女性)、平均 45.8 歳で、多くは 20 代から 60 代の女性でした。
4. 登録患者の都道府県別陽性症例数は、福岡県がトップで 311 例、次いで東京都 125 例、北海道 124 例、大阪府 123 例、第 5 位は広島県 110 例でした。

「茶のしずく石鹼等による小麦アレルギー情報サイト」疫学調査結果の最新情報

この調査は、厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「医薬部外品・化粧品に含有される成分の安全性確保に関する研究」（H24-医薬-指定-014）として、正確な症例の把握と予後の調査を目的に行っている疫学調査研究です。

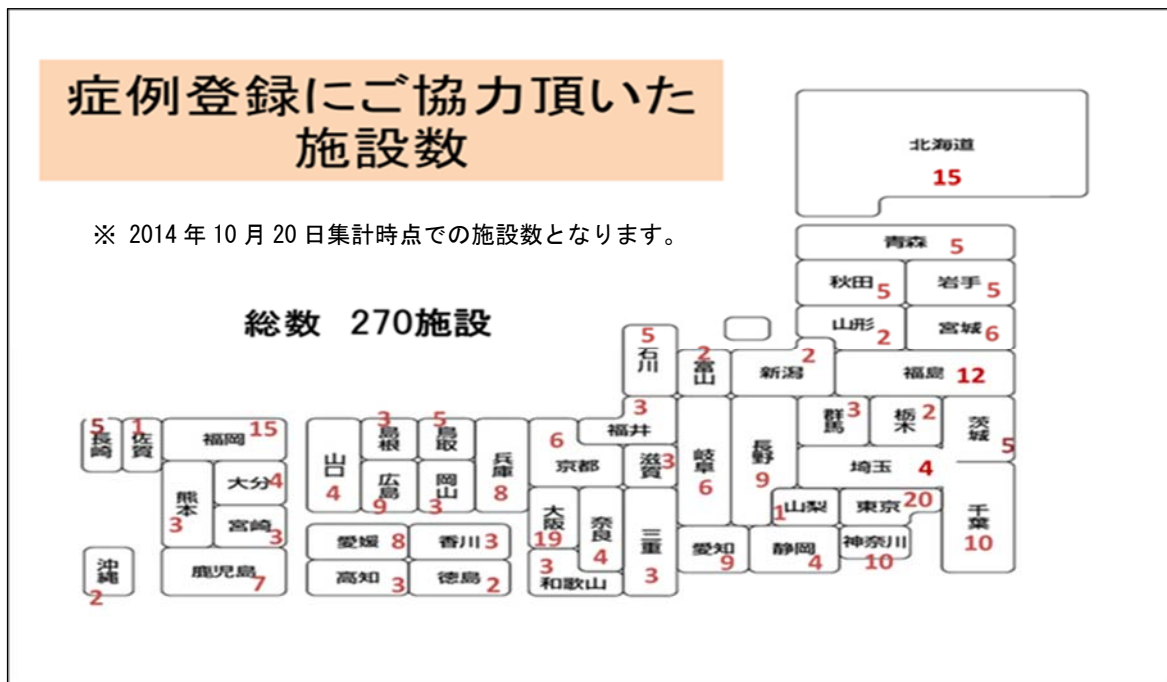


図 1. 都道府県別 確実症例の登録施設数(2014.10.20集計)

1. (旧) 茶のしずく石鹼コムギアレルギーの症例登録数

- 1) 全国 47 都道府県の施設より **2,111 名の確実例**が登録されました。
- 2) 女性 2,025 例 (95.9%) 男性 86 例(4.1%)でした。
- 3) 年齢 1 歳男児から 93 歳女性まで 40 代にピークがありました。

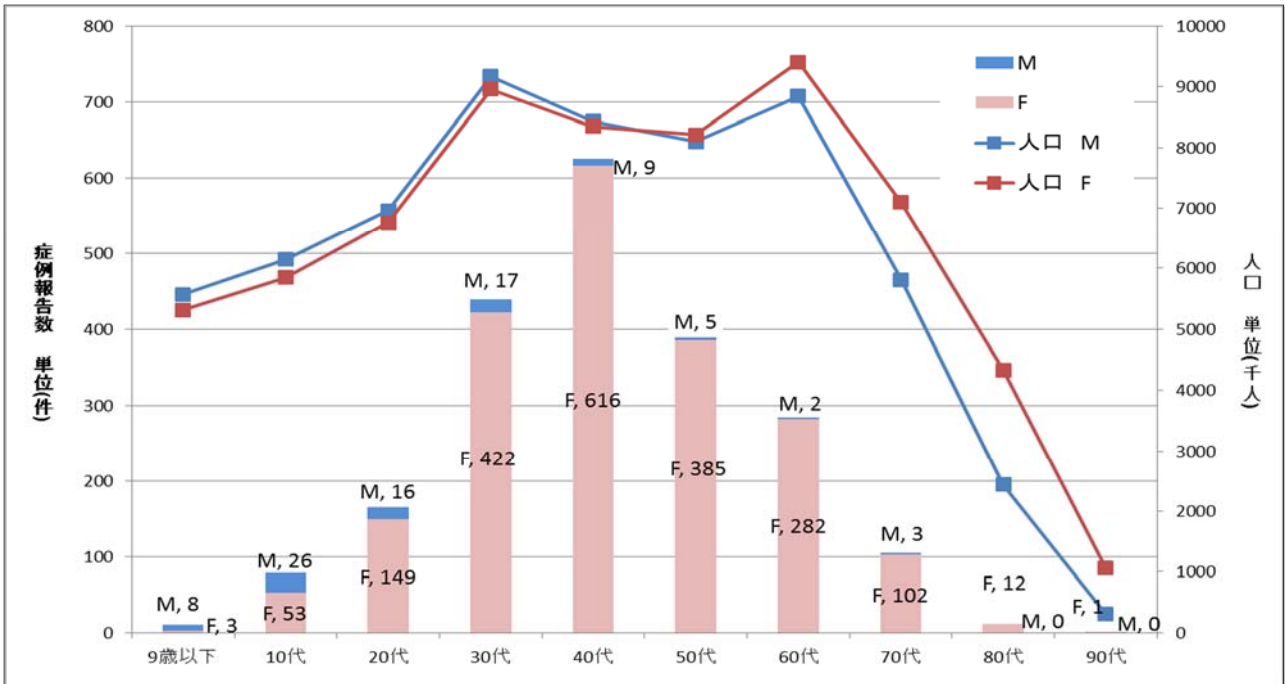


図2. 年齢階級・性別の症例数と人口(2014.10.20 集計)

※人口は、資料「年齢5歳階級別人口」(総務省統計局)の平成22年次データより引用

- 4) 都道府県別集計 (図3) 第1位 福岡県 311 例、第2位東京都 125 例、第3位 北海道 124 例、第4位 大阪府 123 例、第5位 広島県 110 例、になっています。まだ、登録が済んでいない症例があると推測しております。

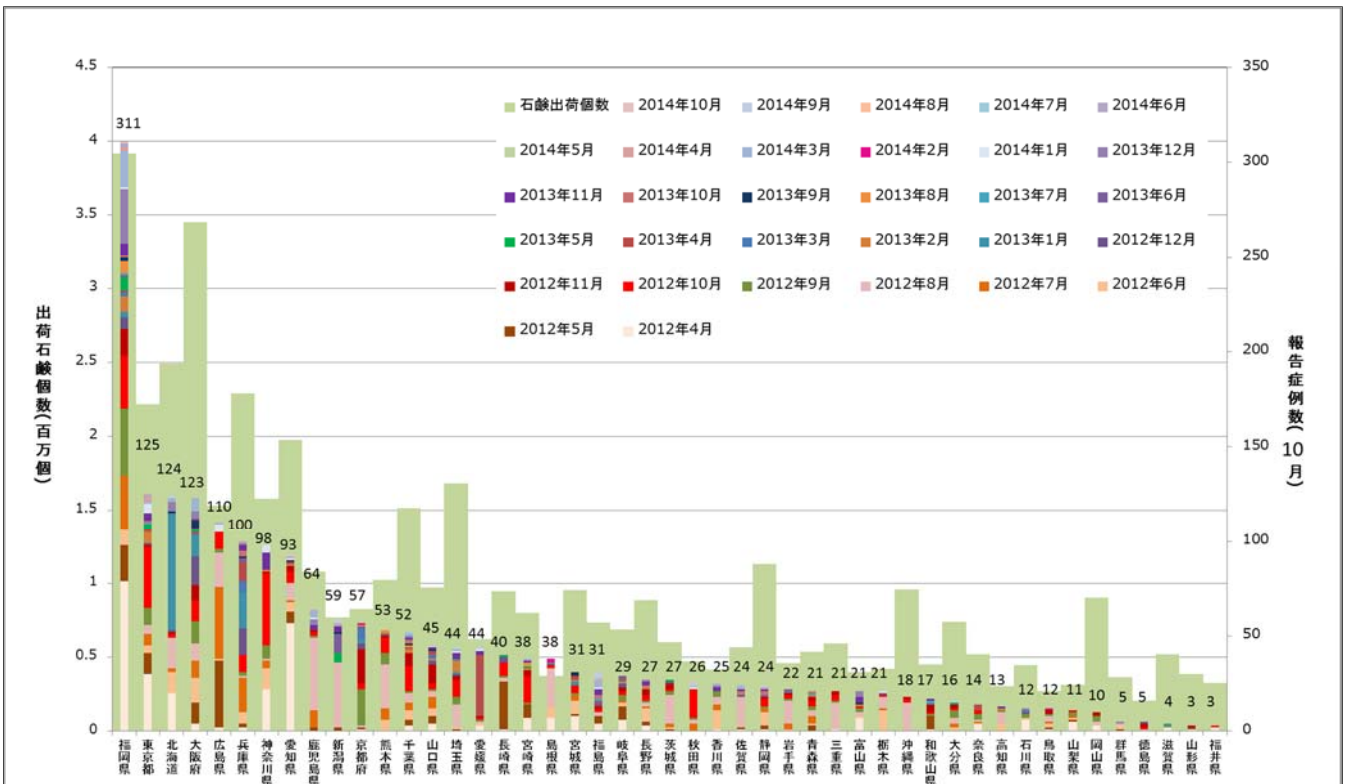


図3. 都道府県別報告症例数(2014.10.20 集計)

5) 月別登録数推移 (図4)

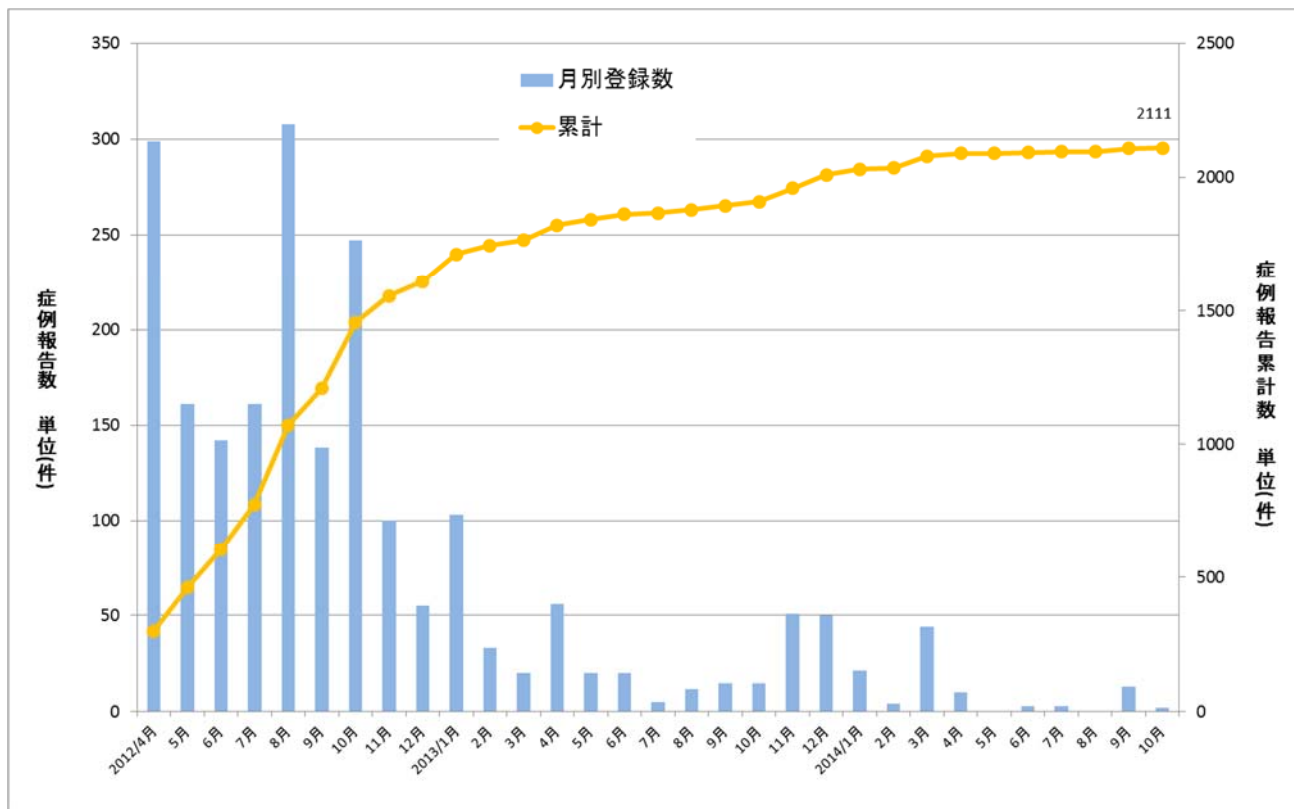


図4. 月別登録数推移(2014.10.20集計)

その他の患者問診情報に基づく疫学調査の結果は、日本アレルギー学会ホームページに掲載されています。

日本アレルギー学会ホームページ : <http://www.jsaweb.jp/>

2012年4月よりご報告してきました「グルパール19Sによるコムギアレルギー症例の疫学調査中間報告」ですが、本報告をもちまして最終報告と致します。また、症例登録も終了いたします。

2014年12月26日

日本アレルギー学会 化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会 委員長

厚生労働科学研究費補助金 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
「医薬部外品・化粧品に含有される成分の安全性確保に関する研究」 (H24-医薬-指定-014)

医薬部外品添加剤等の安全確保に関する分担研究者

藤田保健衛生大学医学部皮膚科学

教授 松永佳世子

E mail:kamatsu@fujita-hu.ac.jp

(担当秘書 小鹿 郁子 E mail: hifuka6@fujita-hu.ac.jp)